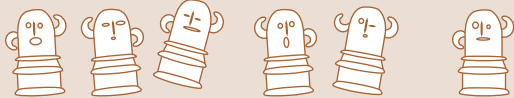
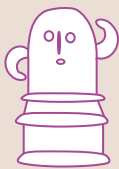




夏休みの体験教室(P.8)、
参加者募集中だヨ!!



水戸の時空を ひとまたぎ



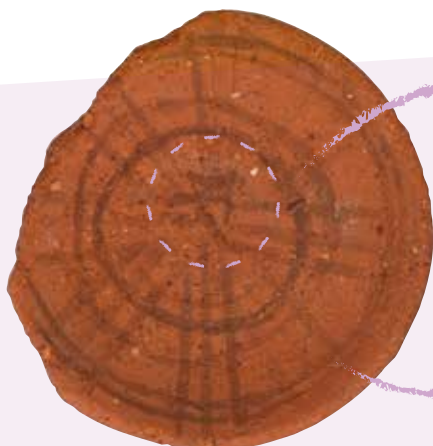
第4回

中世の地鎮め



宗教や信仰は、今も昔も人の心のよりどころの一つ。その慣習には、長い年月を経て、現代に受け継がれたものもあります。今回は、中世の城跡から見つかった、地鎮めの儀式の痕跡を紹介します。

問合せ／埋蔵文化財センター
(☎269・5090)



ア

▲「ア」の文字



【参考】青銅製輪宝
「港区萩藩毛利家屋敷跡遺跡報告書」より



▲輪宝墨書土器(河和田城跡)

◀輪宝墨書土器の実測図(断面)

令和元年の発掘調査で、中世の城跡である河和田城跡から出土した「輪宝墨書土器」。カワラケ(素焼きの小さな皿)に墨で文字と絵が描かれています。文字は、仏様を一字で表す「梵字」の一つで、開敷華王如来などを意味する「ア」。その周りに、密教の儀式の道具である輪宝が描かれています。この輪宝墨書土器は、中世から近世にかけてみられる「地鎮め」の道具の一つと考えられています。市内では初めて出土しました。地鎮めとは、工事の前に、その土地の神様に土地を利用する許しをもらい、作業の安全を祈願する儀式のことです。現在は地鎮祭として、しめ縄を張った4本の青竹を立てるなどの形で行われますが、儀式の原形は、古代からみられます。

元々は、銅製の輪宝やお供え物などを地中に埋める形でした。中世になり、カワラケに輪宝などを描く形に変化。フタをするように組合わせた対のカワラケを、城や寺など、特別な建物の下や敷地内に埋めました。近世になると、仏教・神道・陰陽道など、さまざまな方法で行われるようになり、カワラケや銭などのまじないの道具を埋める行為も一般化・簡略化され、庶民の間でも行われるようになりました。

神式で行われることが多い現代の地鎮祭でもカワラケが使われ、鎮め物というお供え物を埋めるなどしています。はるか昔の慣習が、長い年月の間に形を変えながら、現代に受け継がれているのです。

埋蔵文化財センター 丸山優香里

ダイダラボウのひとりごと ～作業員さんたちの秘密道具～

発掘調査って、ハケやブラシを使うような、緻密な作業をイメージする？でも現場では、意外な道具も登場するよ！まず、鋤簾じょりせんという、鍬くわに似た農具で土の表面をきれいにして、遺構の形を見やすくするんだ。次に、園芸用の移植ゴテなどを使って掘り下げていくんだよ。繊細な作業が必要な所にはスプーンやお玉、竹串、汁椀などのキッチン用品が大活躍！ほかに、紐の先に重りをつけた錘つみという、垂直をみるための道具があるんだ



けど、作業員さんの中には、小型犬用のリードの先に重りを付け、手元で紐の長さを調整できるようにした発明家もいるんだ。より早く、正確に調査するための、作業員さんたちのアイデアってすごいね！



三度の飯より犬が好き！ダイダラボウMが、作業員さんの秘密道具を紹介するよ。

令和3年7月1日号
第1505号

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kounhou@city.mito.jg.jp